

# がんばる山口県の島々

## 「アイランダー2015」より

全国の島々が集まる祭典「アイランダー2015」(主催：国土交通省、公益財団法人・日本離島センター)が先日、東京・池袋サンシャインシティで開催され、今年度は全部で84団体の出展がありました。山口県内の離島からの出展も年々増加し、今年度は5つの団体が出展しました。

今回は、山口県内から出展した5つの島ブースの様子や取り組みを紹介します。

### ◎祝島(上関町)

祝島ブースでは、びわ茶やひじきなど、島の特産品紹介、祝島の観光PR、来年開催される「神舞」の紹介などを行いました。

ワークショップとして「島ネコ」地蔵を描こうという取り組みを行いました。これは、最近ブームになりつつある島ネコの絵を、祝島から持ってきた石に描いてもらって、これを島に飾ろうという企画です。予想以上の人気にびっくりしました。描いていただいた作品は、近いうちに



ステージには瀬戸こうじさん(右)が登場



練堀が背景の祝島ブースとスタッフ

島に展示したいと思っています。

また、ステージでは、来場した皆さんに「神舞」の紹介と、瀬戸こうじさんの『祝島讃歌』の熱唱をお届けしました。

### ◎平郡島(柳井市)

今年初めて出展した平郡島は、島への移住者を増やそうと、「島おこし協力隊員」の募集や、島で準備した「お試し住宅」を使った、島暮らし体験の募集をしています。平郡島への移住に関する支援として、空き家改修補助金、空き家残存家具等処分費補助、島民による、農業・漁業関係の指導サポートなどがあるそうです。

また、島の特産品を使った商品開発にも取り組んでいて、島の段々畑で作ったさつま芋を使った「石積み芋スティック」の味や価格やパッケージデザインに関するアンケート調査を会場で行っていました。



平郡島ブース

### ◎大津島(周南市)

昨年が続いて2回目の出展となる大津島は、昨年に引き続き、島に関するアンケート調査を中心に行っていました。

今年は、島民の目線から見た島暮らしの魅力や、島の行事など生活の様子展示を多くして、島暮らしに関するアンケート調査を行っていました。アンケートに回答した方には、先着500名まで、大津島のひ

じきがプレゼントされました。

大津島にも、島暮らしを体験できる「お試し住宅」が準備されていて、希望者は一週間1万5千円で借りることができるようです。また、島内の各自治会には、「里の案内人」さんがいて、移住前の相談や地域の案内、移住後の相談を気軽に受けられるそうです。

通常は島で暮らしたくても、仕事を見つけるのが難しいことが多く、島に移住したい人にとっては、それが高いハードルになっています。大津島の場合は本土との船便も多く、島に住みながら本土に通勤するという生活も選べるようです。



大津島ブース

### ◎周防大島諸島「屋代島・沖家室島・浮島・情島・前島・笠佐島」(周防大島町)

周防大島諸島の観光と、おなじみの周防大島名物「みかん鍋」のPRおよび試食、そして以前から力を入れている移住者募集のための島暮らし相談が中心のブースでした。

近年、Uターン・リターン者による起業も多い周防大島。移住者向けの住宅や農地も官民が連携して対応しています。また、周防大島に興味



周防大島諸島ブース

を持った人が実際に島暮らしを経験できるよう「お試し暮らし制度」を導入しています。周防大島町定住促進協議会が用意した家具付きの古民家に2週間から4週間暮らししてみることが出来ます。料金は2週間で2万円です。

### ◎萩諸島「見島・大島・相島・櫃島」(萩市)

農業・漁業が盛んな萩諸島ですが、後継者不足に悩んでおり、Uターン・リターン者の募集に力を入れたブースでした。

「相島すいか」や「見島牛」などのブランド商品をもつ萩諸島の農業は、就業者の高齢化が進んでいるのが不安材料とのことです。

漁業の振興にも力を入れており、特に大島は県内有数の漁獲高を誇っています。就業者数は高齢化の影響で減少傾向にあるとのことですが、不安定になりがちな漁業収入や休日の確保について、安定性を持たせるなどの事業経営者の工夫や、新規漁業就業希望者に対する研修制度の実施などによって、毎年新たな若者の就業者が生まれて、島の振興に大きく寄与しているそうです。

萩諸島の高齢化率が約39%と、他の離島と比べて低いのは、以前から農業・漁業の振興に力を入れてきた成果ではないでしょうか。



萩諸島ブース

◎「わいわいタイムス」1月号は1月10日(日)発行予定です。